

研究所だより

第381号
2017年 12月11日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“垣根の垣根の 曲がり角 たき火だたき火だ 落ち葉たき
あたらうか あたらうよ 北風びいふう ふいている”
『たき火』 童謡 1941年



＜土佐清水市教育研究集会・半日教研特集＞

11月8日（水）に各教科部会研究授業を主体に半日教研が開催されました。それぞれの部会で研究授業や日々の実践等について活発な意見や情報交換ができたものと思われまます。部会（理科・外国語・養護・情報教育）の公開授業・協議等について報告します。

【理科】

〔内容〕

- 授業 清水中3年「化学変化とイオン」 授業者：今城 隆先生
今城 隆教諭が清水中3年2組で授業を行った。内容は『化学電池のしくみ』で「化学電池のしくみを理解し、電極での変化を通して電圧が発生するしくみを説明できる」ことが目標の内容だった。
- ・各班に化学電池を実際に見せて、既知の学習内容を参考に、化学電池から電流が取り出せる理由を考えた。
 - ・説明のためのイオンモデルを配布し、説明の仕方を考えていった。
 - ・生徒は各班で真剣に工夫しながら説明を考えていた。
 - ・中学生は、各班にリーダーとなり得る生徒がいて討議を引っ張り深めることができていた。
 - ・生徒達が科学的に深く学ぶことができていた。

〔実践交流（太陽光発電について）〕

今城教諭が自身で作成し実際に家庭で活用している太陽光パネル2つを活用した発電装置を持ってきた。その作成方法や活用の実態について説明を受けて、その活用方法等について協議した。

- ・特に避難所等にこれがあればとても良い。
 - ・避難所では光が大切であり、光に関しては十分活用できる。
 - ・パソコンも使用できる。充電にも十分活用できる。
 - ・我が家にも是非1つほしい。
- 等、様々な意見が出され熱い意見交換がなされた。

〔情報交換〕

- ・シオパーク推進会議から昨年度小学校用、今年度中学校用の副読本が出された。各校に配布されているが、積極的な活用をお願いしたい。
- ・副読本の活用について、校長会から具体的な内容が出されるだろう。

【外国語】

〔内容〕

- 研究授業：清水中2-3 Program7「If you wish to see a change.」 近森 勇太先生
清水中学校 近森先生の授業を全員で参観後、研究協議を行った。協議の中では、生徒がしっかりと先生の後について英語を練習できているが、生徒同士の活動に入った時に、全員が指示通りに活動できていないことや、フリートークになってしまっている生徒がいることなどが課題として挙がり、全員にきちんと英語を使わせるためにはどうしていくべきかと



ということが中心に話し合わされた。

〔実践交流〕

- ・生徒全員を授業に積極的に参加させていくためには、というテーマで意見交換を行った。
- ・学習規律を徹底することが基本であり、きちんと指示や説明を聞かせること、生徒個々の状況をしっかり把握し、支援をしていくことの大切さを再確認した。
- ・ペアワークが中心で授業を構成されていたが、グループワークなどでそれぞれにきちんと役割を与えることで、グループ内できちんと活動ができるのではないかと、という意見が出た。英語の授業に置き換えて考えると、順番に発表したり、お互いに尋ね合ったり、他の人が話したことを言い換えて話すなどといった活動が考えられる。
- ・ICTを使っている場面では、生徒がしっかりと前を向いて取り組むことができていたので、ICTの活用は大切なポイントになる。
- ・特定の生徒ではなく、授業の中で全員に発言させる意識を持って、生徒に緊張感を持たせる。
- ・生徒ができたことに対して（多少オーバーであっても）英語を使って評価する。



【養護】

1. 授業反省

- 研究授業：下ノ加江小学校5年生「バランスの良い食事で元気もりもり！」
授業者：細川 知美先生

－授業者より－

- ・児童が元気いっぱい意見を言ってくれ、助けられた。
- ・導入に時間をかけすぎ、後半部分に時間が足りなかった。

－5年生担任より－

- ・児童の実態として、学年より幼い。普段から意欲的で素直でかわいい。
- ・「まちがいたくない」という気持ちがあり、積極的に手が挙がらない児童たち。「つぶやき」を大切にしていたので、つぶやきがたくさんでる児童である。
- ・楽しい授業であった。

－意見交換－

- ・「研究授業の反省」模造紙より（KJ法）

2. 幡多支部会からの協議

- ・四万十・三原ブロックの支部役員担当2カウントについて
今後人数的に厳しくなっていく状況、今後3年後から、1カウントに考えていく。
- ・会費について
講師からも徴収する。（1,000円）
- ・幡多学校保健研究大会について（時期、授業）
12月頃、授業無し（現場は忙しくなっている）

3. 情報交換

- ・退職記念品について

4. その他

- ・H30年度 役員について
- ・全国養教研修会 8/8
- ・前期研修会 8/7
- ・夏期研修会 午後 会費1,000円 8/21
- ・後期研修会 2/1



・心臓検査様式を変更する。

【情報教育】

〔内容〕

ー授業者よりー

前日、プロロボUSBプラスエディタを使用予定のパソコンに入力し動作環境を確かめておいたので、すぐに授業に入ることができた。昨年は、2日間に渡って、課題1・2、課題2・3と授業を進めたが、今年は1日で課題1・2・3と進むことができた。前回よりプロロボUSBプラスエディタが使い勝手が良くなっていたことが、一つの要因として考えられる。

また、下川口小6年生が、一生懸命授業についてきてくれたのももう一つの要因と考えられる。授業者としては、たぶん課題3までは無理だと思っていたが、子どもたちが熱心に集中してくれたからだと思う。

○児童感想文

- ・プログラミング学習は家でもしたことがあるけど、プログラミングでロボットを動かしたことはなかったので、いつもと違った楽しさがあったし、こんなに細かい調整をすることはなかったので楽しかったです。特に課題2をピタリクリアした時は、すごくうれしかったし、「やったー！」と思いました。
- ・中学生になってプログラミングの勉強をしたいです。とても楽しい学習になりました。
- ・藤原先生とプロロボをしてパソコンでロボットを動かしたりするのは初めてだったけど、説明を聞いてやったら、ちゃんとできたので良かったです。前進の秒数や旋回の秒数もすごく難しくて何回もやってゴールの所に行ったときはうれしかったです。旋回や前進を何回も調整して、なかなか合わなかったけどゴールにはみださずピタリ入った時にはすごくうれしかったです。またプロロボをやりたいです。

〔実践交流〕

ー参観者よりー

- ・子どもたちは、45分の授業で操作も初めて習うのに良く課題3まで全員が到達することができたと思う。
- ・中学生で時間がかかるのに集中してよくここまでできたと思う。
- ・授業がスムーズに進んでいたし、子どもたちがプログラミングに熱中していた。
- ・まとめの感想も短い時間ながら意欲的にできたことが良く書けている。

〔情報交換〕

- ・なぜ今プログラミング教育が取り上げられるようになったか。
- ・プログラミング必修化の目的。
- ・プログラミング的思考を育てる。
- ・指導はどうなる？（授業時間の確保、研修制度の確立、研修時間、指導人材の確保）

〔その他〕

- ・次回 2018年 1月11日 清水中 16:00～



☆第1回小学校6年生交流会（土佐清水市小中連絡会・教育委員会主催）

28日（火）幡陽小学校において市内7小学校の6年生92名が一堂に会して「第1回小学校6年生交流会」が開催されました。この交流会は、「少人数では経験できない大人数集団の雰囲気や行動様式になれるようにする。」「より多くの仲間と関わり合いを持ち、互いの理解を深め集団で活動する楽しさや意義を体験すると共に、コミュニケーション力や協調性等をより一層身につける。」の2つの目標を掲げて実施されました。開会行事では、連絡会会長の岡崎校長（清水中）が「この交流を通して友だちを理解し合ってください。」と激励してくれました。児童代表（幡陽小）からは、「水泳、陸上記録会では交流する時間が少なかったため、今日の交流会では、仲間づくりできることを楽しみにしていました。」と力強く挨拶してくれました。

仲間づくり1では、先ずはじめに清水小助村先生の指導のもとウォーミングアップを兼ねてのダンス「およげたいやきくん」をみんなで元気に踊りました。

続いて仲間づくり2では、下ノ加江小中屋先生の指導のもと、友だちと「こんにちは。〇〇です。よろしくお願ひします。さようなら。」の挨拶を相互に交わしながら仲間を増やしていくゲームに取り組みました。ゲームは簡単な挨拶から、ジャンケンを取り入れたり、自分をアピールするなど徐々に内容を盛りだくさんにしていきます。その度に子どもたちは、うち解け合い、仲間を増やしていきます。

仲間づくり3では、三崎小渡辺先生の指導のもと4チームに分かれて「長縄跳び」にチャレンジしました。ルールは「1分間に8の字跳びで何人跳べるか」というものです。はじめに各チームで試技を行い、跳び方等について話し合いをしました。その後話し合った跳び方を練習、確認しました。最後に各チームがチャレンジしました。結果1位は1分間に64人でした。最初はぎこちなく行動していた子どもたちも、先生方のほめ言葉シャワーを浴びながら、ゲームをこなしていくにつれ緊張もほぐれ、率先して指示する友だち、声かけする友だちなど、きびきびとした行動ができていました。この取組を通して、この交流会の目標が達成できたのではないかと思います。

（仲間づくり1「ダンス」）



（仲間づくり3「話し合い」）



（仲間づくり2「仲間を増やそう」）



（仲間づくり3「長縄跳び」）

☆書籍の紹介Ⅰ☆ ~ご利用をお待ちしています~

○新教育課程ライブラリⅡVol.11

誌上セミナー「新しい学びを起す授業」